

別紙標準様式（第7条関係）

△ 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度第3回枚方市病院事業運営審議委員会
開 催 日 時	平成28年11月18日（金） 15時00分から 15時50分まで
開 催 場 所	市立ひらかた病院 2階 講堂
出 席 者	委員：大森委員長・岡沢副委員長・田口委員・野口委員・ 福留委員・八尾委員・藤本委員 病院：高井病院事業管理者・森田病院長・坂根副院長・ 赤塚副院長・本合副院長・石上看護局長・ 島田都市整備部長・西村事務局長 他
欠 席 者	原委員
案 件 名	1. 市立ひらかた病院有効活用地の今後の活用方針について 2. 中期経営計画の評価（案）について
提出された資料等の 名 称	・資料1 市立ひらかた病院有効活用地の今後の活用方針につい て ・資料2 中期経営計画の評価（案）
決 定 事 項 等	（確認事項） ・案件1～2について説明を受け、質疑応答により確認を行う。
会議の公開、非公開の 別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者	—
所管部署（事務局）	市立ひらかた病院 事務局 経営企画課

審 議 内 容	
○大森委員長	<p>開会に際しまして、一言ごあいさつを申し上げます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、本日の委員会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>暦の上では立冬を過ぎ、めっきり冬の気配が感じられる今日この頃ですが、皆様におかれましては、お体にご自愛くださいますようお願い申し上げます。</p> <p>さて、本日の委員会の案件は、「市立ひらかた病院有効活用地の今後の活用方針について」、「中期経営計画の評価（案）について」を予定しております。</p> <p>委員の皆様には、委員会運営にご協力いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、委員の出席状況について、事務局に報告を求めます。</p> <p>西村事務局長。</p>
○西村事務局長	<p>委員の出席状況についてご報告いたします。</p> <p>本日の委員会の、ただいまの出席委員は7名です。</p> <p>なお、枚方市歯科医師会の原委員につきましては、所用のため欠席する旨の報告をいただいております。以上で報告を終わります。</p>
○大森委員長	<p>ただいま報告がありましたとおり、出席委員は定足数に達しておりますので、これより、平成28年度第3回枚方市病院事業運営審議委員会を開会します。</p> <p>本会議の公開・非公開の取り扱いにつきましては、第1回委員会において、公開とさせていただくことになりましたが、本日、傍聴希望者はおられますか。</p> <p>辻経営企画課長。</p>
○辻経営企画課長	<p>本日、傍聴希望者はいらっしゃいません。</p>
○大森委員長	<p>それでは、まず、病院事業管理者より挨拶をお受けしたいと思います。</p> <p>高井病院事業管理者。</p>
○高井病院事業管理者	<p>(高井病院事業管理者の挨拶)</p>
○大森委員長	<p>それでは、これより議事に入ります。</p> <p>案件第1「市立ひらかた病院有効活用地の今後の活用方針について」を議題とします。</p>

<p>○辻経営企画課長</p>	<p>事務局に説明を求めます。 辻経営企画課長。</p> <p>それでは、1つ目の案件「市立ひらかた病院有効活用地の今後の活用方針について」をご説明いたします。<a href="#">資料1</a>をご覧ください。</p> <p>まず「1. 政策等の背景・目的及び効果」についてでございますが、市立ひらかた病院整備事業完了後の有効活用地の約2,500平方メートルにつきまして、初期救急医療や災害時の医療救護活動において、枚方市医師会が果た役割を踏まえ、条件を付して枚方市医師会に譲渡する方針を定めるにあたり、報告を行うものでございます。</p> <p>「(1) これまでの経過と現状」ですが、この用地につきましては、平成19年11月に策定した「新病院整備計画」において「幼児療育園の移転や初期救急医療体制の再構築など、市民の健康・福祉の向上につながる形での有効利用を検討する」旨の規定をしております。</p> <p>幼児療育園の移転につきましては、平成27年3月に、すぎの木園との合築で、新たな児童発達支援センターとして磯島北町地区に整備する計画を定め、現在、整備事業を進めております。</p> <p>また、本市の初期救急医療体制は、休日と土曜日夜方の診療を枚方市医師会に委託し、医師会館内の休日急病診療所において確保しておりますが、老朽化、耐震性等の課題がある状況でございます。</p> <p>一方、「(2) 枚方市医師会の動向」としましては、医師会館について、市と同様に課題を認識され、有効活用地のすべてを取得して初期救急医療体制を確保するとともに、大規模災害時に市災害医療センターである市立ひらかた病院と連携した医療救護活動を展開できる機能を持った医師会館を移転建て替えたいという趣旨で、三度の要望書を本市に提出しておられます。</p> <p>次に、「2. 活用方針」についてでございますが、これらを踏まえ、将来にわたって市民の健康・福祉の向上につながることで、東日本大震災、熊本地震の教訓を踏まえた地域防災計画の見直しに合わせた災害時医療救護体制の再構築という観点から、有効活用地について、条件を付して枚方市医師会に譲渡する方向で活用方針を定めるものです。</p> <p>条件の1つ目は、休日急病診療所の併設です。</p> <p>休日急病診療所を併設する医師会館を整備することで、検査や入院を必要とする方の後送病院である市立ひらかた病院との連携強化を図るものでございます。</p> <p>条件の2つ目は、大規模災害時における医療救護活動の推進で</p>
-----------------	--

<p>○大森委員長</p> <p>○野口委員</p> <p>○大森委員長</p> <p>○辻経営企画課長</p>	<p>す。</p> <p>大規模災害時には、医療救護班の編成・派遣等の役割を担う枚方市医師会等と、市災害医療センターである市立ひらかた病院が連携し、一体的に災害医療救護活動を展開するものでございます。</p> <p>資料裏面の上部をご覧ください。「有効活用地」の【位置図】をお付けさせていただきましたのでご参照ください。</p> <p>「3. 経過と今後の予定」につきましては、平成19年11月から平成28年10月までの経過は資料をご参照ください。</p> <p>今後の予定でございますが、平成28年12月に市立ひらかた病院駐車場等整備事業の工事が完了予定となっており、平成29年1月以降に、活用方針を決定し、医師会からの要望書について回答を行うとともに、譲渡方法や時期、新医師会館の機能等について、医師会等と協議・調整並びに庁内協議を行う予定でございます。</p> <p>最後に、「4. 総合計画等における根拠・位置付け」につきましては、記載のとおりです。</p> <p>「市立ひらかた病院有効活用地の今後の活用方針について」の説明は、以上でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>これより、ご質問・ご意見をお受けします。</p> <p>ご質問・ご意見はありませんか。</p> <p>野口委員。</p> <p>「2. 活用方針」の「(1) 休日急病診療所の併設」についてですが、現在の市役所分館横にある枚方市医師会の建物では、日曜日でも子供さんを抱えた母親の方等が階段の所まで大勢居られ、大変な状況であるのを見受けます。ここで「市立ひらかた病院との連携の強化を図る」旨が書かれていますが、市立ひらかた病院との距離が近くなることにより具体的にどのようなメリットがあるのかを教えてくださいませんか。</p> <p>辻経営企画課長。</p> <p>休日急病診療所につきましては、現在の状況では距離的に離れておりますので、もし診察を受けて直ちに入院や処置が必要となった場合、市立ひらかた病院が二次後送病院となっておりますので、ここまで移動していただく必要がありますが、隣接する有効活用地に休日急病診療所を構えることによって、移動距離が格段に短くなりますので、速やかに本院の方に来院いただけるというメリットがございます。</p>
--	---

○大森委員長	野口委員。
○野口委員	休日急病診療所の具体的な利用件数と、その後、市立ひらかた病院に来院したという件数も分かれば教えていただけないでしょうか。
○大森委員長	森田病院長。
○森田病院長	枚方市医師会において休日診療を行っていただいております、土曜日が夜間で日祝日が日中ですが、件数は小児科ということから季節的にかなり変動があり、多い時では100人を超えることもありますが、大多数はそこで対処でき、後送される人数はそれほど多くなく、1日当たり1～2人程度であると思います。
○大森委員長	藤本委員。
○藤本委員	休日急病診療所は、小児科は感染症が流行するか否かにより、件数に多寡が生じます。年末年始は、1日当たりの受診者が150人を超えるという状況になっております。現在の休日急病診療所自体は第一次救急、つまり初期の救急として、まず患者さんを診るという役割となっていることから、詳細な検査等のほか、入院加療も実施できませんので、その必要がある場合には市立ひらかた病院をお願いしております。内科については休日診療が各所で実施されておりますが、インフルエンザ等の感染症が流行することによって休日急病診療所で診ることがよくあります。以前は休日診療を行っている医療機関は少なかったのですが、最近は日曜日でも診療するところが若干増えたため、以前と比較すると多少混雑は緩和されましたが、年末年始の時期は休日急病診療所の手前の階段の部分まで一杯になるなど、非常に手狭で困っている状態です。もう一点はここにも記述がありますが、医師会館は建設後40年が経過し、下層部に駐車場があり、老朽化が進み、耐震性も無いほか、バリアフリーでもないため、特に地震発生時には不安ですので、休日急病診療所を中心に移転を考えております。
○大森委員長	他にご質問・ご意見はありませんか。 福留委員。
○福留委員	休日急病診療所が近くなり、利便性が向上することは良いことであると思いますが、市立ひらかた病院の建て替えを行う際に

	<p>休日急病診療所を合築する形態とすれば、イニシャルコスト等を非常に削減することが可能だったのではないかと思います。新たにこの場所に建設するというのは、さまざまな関係性があるのだらうと思いますが、市立ひらかた病院と休日急病診療所との合築についての検討は行われたのでしょうか。</p>
○大森委員長	森田病院長。
○森田病院長	<p>当初、小児科の二次救急は非常に混雑しており、新型インフルエンザが流行した際等にはしばしば朝9時に来院された方が夕方5時や6時にならないと診察できないという事態になっておりました。その際には医師会の先生方に手伝っていただき、言わば「軒下を貸す」という形で応援していただいた時期もあります。その時期に建て替えの話がでましたので、合築ということも検討しましたがけれども、元来、市立の病院と医師会ということでは、経営をどのようにするのかという点で非常に難しいということがございました。</p>
○大森委員長	高井病院事業管理者。
○高井病院事業管理者	<p>資料裏面の位置図をご覧くださいますと、このエリアに市立ひらかた病院、市立保健センターがあり、その中心に枚方市医師会が休日急病診療所を備えて来ていただけたということになれば、枚方市医師会様の要望書に記載があったかと思いますが、ここの区域を枚方市における一次から二次、そして災害時の一つの医療ゾーンとして整備していくことにより、活用と言いますか、機能的に相乗効果を生むであろうと私共も考えており、そのことも踏まえまして、今後の方針についての決定は枚方市の健康部になるのですが、そちらとも協力しながら、取り組んでいきたいと考えている次第でございます。</p>
○大森委員長	<p>他にご質問・ご意見はありませんか。 特にないようですので、本件に対するご質問・ご意見はこの程度にとどめます。 それでは、次に案件第2「中期経営計画の評価（案）について」を議題とします。事務局に説明を求めます。 辻経営企画課長。</p>
○辻経営企画課長	<p>「中期経営計画の評価（案）」についてご説明申し上げます。 <b>資料2</b> 1ページの「はじめに」をご覧ください。 本院では、新病院開院を2年後に控えた平成24年10月に、平成</p>

24年度から28年度までの5か年を計画期間とする中期経営計画を策定し、緊急健全化対応策及び中期的な取組を着実に進めてまいりましたが、現在、更なる病院機能の見直しや経営の改革に総合的に取り組むことを柱とした新公立病院改革プランの策定が求められています。

そこで、本院が新公立病院改革プランを策定するにあたり、前計画となる中期経営計画の平成24年度から平成27年度までの取組をまとめ、評価を行おうとするものでございます。

それでは、2ページをご覧ください。

第1章といたしまして、「中期経営計画に掲げた主要課題と取組の方向性」につきまして、収益の増加と費用の縮減の大きく2つの面に分けてまとめております。

個々の内容につきましては、第2章以降でご説明させていただきます。

それでは、3ページをご覧ください。

第2章といたしまして、「収益増加に向けての取組状況」について記載しておりますが、その中の主なものについてご説明させていただきます。

まず、「(1) 病棟体制の整備について」でございますが、旧病院では265床であった一般稼働病床を、平成26年9月の新病院開院時には289床、平成27年6月には309床と段階的に稼働ベッド数を増加させ、平成27年10月には327床の全病床稼働を実現しました。

次に、「(2) 適切な平均在院日数の確保」についてでございますが、病棟の看護師が、患者さんやご家族の方へきめ細やかな配慮をしながら退院日の調整を行うよう運用を改善したほか、平成28年度からは、4階から7階までの各階に退院調整担当職員を配置しました。

次に、「(3) 提供医療内容の充実」についてでございますが、救急専門常勤医を確保し、日勤帯の救急受入れの体制整備を行ったほか、難易度の高い手術ができる応援医師を確保し、消化器外科の手術体制を強化しました。

4ページをご覧ください。

1行目から2行目に記載しておりますが、新病院開院後の平成26年10月から核医学検査を、平成27年1月からは放射線治療を予定通りスタートし、がん診療拠点病院の要件を整え、平成28年3月には「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受けました。

次に、「(4) 医師等の医療スタッフの充実」についてでございますが、大阪医科大学との連携により、医師の確保に努めたほか、新病院の全病床稼働に向け、看護師を計画的に採用し、教育訓練を実施しました。また、新病院の稼働とその後の医療提

供体制の充実に向け、放射線技師などの医療技術員につきましても計画的な採用を行いました。

次に、「(5) きめ細かな収入確保努力」につきましては、4ページから5ページにかけて、平成24年度から27年度の間に取り得ました診療報酬改定に対応した新規加算を表にまとめておりますのでご覧ください。

5ページの下段の「(6) 情報発信の強化」から6ページの「(8) 全職員の経営参画意識の向上」につきましては、記載のとおりでございます。

それでは、7ページの「第3章 収益関連項目の実績」につきまして、ご説明させていただきます。

まず、上段の「入院外来患者数」の推移でございますが、平成25年度以降、入院・外来とも順調に増加しております。

次に、中段の「1人1日当たりの入院診療単価」と下段の「1人1日当たりの外来診療単価」でございますが、平成24年度以降、どちらも上昇しております。

8ページをご覧ください。

まず、上段の「医業収益」についてですが、平成25年度以降、毎年増加しています。

次に、中段の「病床利用率」についてですが、平成25年度以降、入院患者数の増加により改善傾向にありましたが、平成27年度は稼働病床を増加させた影響もあり、微増にとどまりました。

次に、下段の「手術室における手術件数」についてですが、平成25年度以降、毎年増加しており、この手術件数の増加が、診療単価の上昇に大きく寄与していると考えております。

9ページをご覧ください。

第4章といたしまして、「費用縮減に向けての取組状況」として、「(1) 効率的・効果的な設備投資」、「(2) 効率的・効果的な新病院運営体制の確立」、「(3) 費用縮減対策の継続」に係る取組状況について記載しております。

10ページをご覧ください。

「第5章 費用関連項目の実績」についてでございますが、平成26年9月の新病院開院と全病床稼働に向けた職員採用による給与費、患者数増加に伴う材料費、病院施設や医療機器等に係る減価償却費の増加などから、年々医業費用は増加していますが、平成27年度の増加の主な要因は、減価償却費の増加でございます。

11ページをご覧ください。

「第6章 経営関連指標の推移とまとめ」でございます。

収益につきましては、第2章に列挙しました各種の取組により診療単価が向上したことや新病院の開院により、療養環境が改



	<p>善したこと、手術室を増加したこと、放射線治療など新しい治療を開始したことなどから患者数が増加し、医業収益のうえでは、平成 24 年度と平成 27 年度比較で 30%の増収を達成できました。</p> <p>一方、費用の面では、新病院開院のために必要な経費として給与費や材料費、減価償却費が増加したものの、第 4 章に掲げた取組などにより、平成 27 年度は計画値に対して約 1 億 400 万円の縮減ができました。</p> <p>その結果、医業収支比率と経常収支比率につきましては、11 ページから 12 ページにかけてグラフをお付けしておりますが、平成 26 年度以降、実績が計画値を上回るようになり、一定の改善効果が見られます。</p> <p>しかしながら、収益獲得の大きな要素である病床利用率につきましては、依然として計画値である 80%と乖離しており、救急搬送患者の積極的な受入れや地域連携の強化などに取り組まなければならないと考えております。</p> <p>また、診療単価を向上させるための各種加算の取得や手術件数の更なる増加、地域医療支援病院の承認要件である患者紹介率・逆紹介率の向上などは引き続きの課題となっています。</p> <p>以上の内容を 中期経営計画の評価のまとめとし、現在、策定作業を進めております「市立ひらかた病院改革プラン」に反映していきたいと考えております。</p> <p>説明は以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。</p>
○大森委員長	<p>これより、ただいま説明のありました、「中期経営計画の評価(案)」の内容について、ご質問・ご意見をお受けします。</p> <p>ご質問・ご意見はありませんか。</p> <p>野口委員。</p>
○野口委員	<p>中期経営計画に基づく評価ということで、主に収益増加に向けての取組状況について詳細なご報告がありましたが、その前段である「中期計画においてめざす提供医療」のところで、市立ひらかた病院にしか果たすことができない役割・機能として、小児医療・小児二次救急医療、周産期医療ということの記載があります。この計画は平成 28 年度が最終年度となりますが、これらのことについてはどこかで評価はあるのでしょうか。</p>
○大森委員長	<p>西村事務局長。</p>
○西村事務局長	<p>中期経営計画の中に、市立ひらかた病院にしか果たすことのできない役割・機能として、小児医療・小児二次救急医療、そし</p>

	<p>て周産期医療の記載があります。実際に、これは旧病院の時期から継続して行っておりますので、敢えてこの評価の中には含めなかったということでございます。中期経営計画の中では、具体的に緊急的に取り組まなければならないもの、そして中長期的に取り組まないといけないものとしての整理がされていまして、今回の評価では、緊急的に取り組まなければならないもの、そして中長期的に取り組まないといけないものとして、列挙されていた個別の項目について評価のまとめとさせていただきます。市立ひらかた病院にしか果たすことのできない役割・機能は、理念的な方向性やビジョンとしては確かに記載がございましたが、理念的なことに対して理念で評価するというのは分かりにくいのではないかと、それよりも、個々の具体の項目について評価した方が、公開する場合にも市民の皆様にも理解し易いのではないかとこの考えからこのようなまとめとしております。</p>
○大森委員長	野口委員。
○野口委員	<p>分かりました。例えば、周産期医療でも周産期に必要な一定の専門医、産科医や助産師等の確保に努めるということの記載がありますが、これについては達成できているという理解でよいのでしょうか。</p>
○大森委員長	西村事務局長。
○西村事務局長	<p>助産師や産婦人科医については一定達成しております。但し、まだこの点は課題であろうという点は残課題として残っておりますので、その点は次期の改革プランの中で強化をしたいと考えております。</p>
○大森委員長	野口委員。
○野口委員	<p>個別の収益向上という面について、「第2章 収益増加に向けての取組状況」として(1)から(8)までの記載がありますが、計画では理念的なことが記載されているのに対し、こちらでは具体的なことが記載されていると思いますが、これを見ると(1)から(8)の項目については、概ね予定どおり進められているという理解でいいのでしょうか。</p>
○大森委員長	西村事務局長。

○西村事務局長	<p>病床稼働も含め、予定どおり進めているということでございます。但し、残課題としましては、病床利用率の問題、或いは診療単価のこと等は更に上を目指しても良いのではないかと考えております。当初予定していた経常収支比率や医業収支比率は計画値を上回ることができましたので、一定これはそのような評価をしているものでございます。</p>
○大森委員長	<p>野口委員。</p>
○野口委員	<p>「第3章 収益関連項目の実績」において、いくつかの指標についての説明がありましたが、具体的には病床利用率の80%達成が一つの課題であると思いますが、他の項目、例えば手術件数については件数が多いほど良いとは思いますが、目標値が個別にあるものなのか、或いは結果として手術がこれだけあったので今回はこの様になっているということなののでしょうか。手術件数が多いほど診療単価が向上するという事等から、それぞれの指標に目標値はあるのでしょうか。</p>
○大森委員長	<p>西村事務局長。</p>
○西村事務局長	<p>手術件数の目標値というのは、なかなか難しいと考えております。それよりも経営という観点が重要であると考えますので、医業収支比率や経常収支比率というものを重視したいと考えております。ただし、その要素としては手術件数、診療単価、或いは地域からの紹介率等の項目が要素としては重要であると思えます。ただ、それに目標値を定めるというのはなかなか難しいところで、入院患者さんと外来患者さんの比率、医師数、医師により得意なもの或いは不得意なもの等の専門性があるほか、全ての患者さんに手術を行う訳ではなく、手術のある診療科と手術のない診療科等のバランスもあると思えますので、全ての項目について目標値を設定するのはなかなか難しいと考えております。</p>
○大森委員長	<p>野口委員。</p>
○野口委員	<p>目標値を必ず設定する必要があるとは考えておりませんが、地域において紹介がある場合、手術が必要な患者さんがあれば、市立ひらかた病院に送るか、別の病院に送るか、いずれにしても手術が必要な患者さんな訳ですから、紹介を受ける病院としてやっていくのかどうか、受け入れるのであればしっかり手術を行う必要がある訳ですが、その点がどうであったのかが重要</p>

	<p>で、紹介されたのに断るといことがあれば、折角、市立ひらかた病院で手術を受けようと思っていたのに、それを断るケースがあったとすると手術件数が増えない訳ですから、その点も含めてどうであったのかと思います。何よりも、計画では市民の目線や患者さんの視点で見るといことが大前提であると思いますので、そのあたりが実際にはどうであったのかいことを評価して欲しいと思います。</p>
○大森委員長	<p>他にご質問・ご意見はありませんか。 福留委員。</p>
○福留委員	<p>医療の世界といのはなかなか難しい面があると思いますが、全体像として、どのように判断するとよいのかいという問題で、枚方市だけで見た場合の医療の金額があると思いますが、それに対して市立ひらかた病院の位置付けはどうか、またどのような収益改善ができていのか、この点を枚方市のみで見た方がよいのか、北河内で見の方がよいのか、少々分かりにくい面があると思のですが、市立ひらかた病院の評価がその収益改善いという部分で置き換えられるのではないかと考えます。その点で占有率いという視点で見の場合に、市立ひらかた病院は占有率が高まっている、若しくは平衡であるなど、非常にデータの的に難しいとは思いますが、分かるのであれば教えていただけないでしょうか。</p>
○大森委員長	<p>西村事務局長。</p>
○西村事務局長	<p>占有率の推移いということであると思いますが、手元に資料がないのですが、数値を算出するのなかなか難しいものがござい。本院はD P Cいという制度の中で運用してありますが、その診断群分類は1,800 から1,900 程度の病名の分類からスタートしてあり、その病名分類毎に占有率があったり、或いはI C D-10 いという区分の中での占有率であったり、指標も幾つもござい。但し、大変重要な数値であり、同じ地域の中でいくつかの病院があり、この病名についてはこの病院が強い、または弱いといったことで、確かに占有率の数値が一つの指標となりますので、そのあたりも評価できれば調べてみたいと思。い。</p>
○大森委員長	<p>福留委員。</p>

○福留委員	<p>それからもう一点ですが、病床利用率が 80%の目標に対して現在は 72.4%ということですが、医業収支比率では計画と実績が僅か 1 ポイントの差、経常収支比率では同じく 2 ポイント強の差であり、計画ということていくと病床利用率が 80%になれば、この計画比率が少しおかしいのではないかと感じます。例えば、病床利用率が 80%となった場合の医業収支比率及び経常収支比率は、もう少し実績と計画とのギャップが生じるのではないかと思いますがいかがでしょうか。</p>
○大森委員長	<p>辻経営企画課長。</p>
○辻経営企画課長	<p>病床利用率の 80%というのは当初の計画策定時より設定しておりましたもので、これについては基本的に変更する予定はございません。一方、医業収支比率や経常収支比率につきましては、前年度の決算や直近の実績を基に何度も見直しをかけており、その見直しにより計画値も再計算し直しておりますので、医業収支比率と経常収支比率とも決算値や実績値と乖離がそれほど大きくないことになっております。</p>
○大森委員長	<p>福留委員。</p>
○福留委員	<p>平成 26 年度頃からの努力により、医業収支比率や経常収支比率とも上昇し、非常に喜ばしいと思っており、引き続きよろしくお願ひします。もう一点ですが、6 ページの最下段に記載の TQM 活動ですが、私も以前見せていただきましたが、病院内の職員の皆さんが非常に生き生きと発表されているのを見て、非常に素晴らしい活動であると思っております。ところが、もう中止するという事をお聞きしたのですが、この活動は非常に有意義であるため、継続するのが望ましいと考えますが、ご見解をお聞かせ願ひします。</p>
○大森委員長	<p>西村事務局長。</p>
○西村事務局長	<p>TQM 活動は決して中止した訳ではなく、新病院を開院するにあたり、全職員に大変忙しい状況が生まれ、余り職員に負担を掛け過ぎるのも良くないため、この間は一時休止ということにしておりましたが、今年度から再度復活するという事で、現在、準備を進めているところでございます。</p>
○大森委員長	<p>福留委員。</p>

○福留委員	分かりました。また、是非、見せていただきたいと思います。
○大森委員長	<p>他にご質問・ご意見はありませんか。</p> <p>特にないようですので、本件に対するご質問・ご意見はこの程度にとどめます。</p> <p>本日、予定されていた案件は以上ですが、その他、何かございませんか。</p> <p>野口委員。</p>
○野口委員	<p>前回の委員会においてもお話がありました駐車場の関係ですが、現在の稼働状況や、市民の皆様からのご意見などがあれば教えていただけませんか。</p>
○大森委員長	塚原事務局次長。
○塚原事務局次長	<p>8月より駐車場の運用を開始しまして3ヵ月余りが経過しました。病院の駐車場につきましては最大179台収容が可能ですが、この3ヵ月の平均で見ますとピークで140～150台程度ですので、約20～30台分が空いているという状況でございます。土日祝日につきましては、平均のピークで50台程度という状況でございます。また、隣にあります保健センターの駐車場は71台収容が可能ですが、平日のピークで50台程度ですので、20台程度の空きがあるという状況です。土日祝日につきましては20台程度がピークということで、両方合わせて250台収容可能なところで、平日の空きが40～50台程度あるという状況でございます。病院の駐車場に関しましては、9時頃より駐車が増えまして、ほぼ10時～11時台がピークの後、徐々に減少し、夜間については15～20台程度の駐車をされているという状況でございます。</p> <p>それから、利用者からのご意見でございますが、一般利用者の料金が適用されるお見舞いの方や付添の方等、長い時間を駐車される方に関しては駐車場の料金が低い、割引があっても長時間の駐車であると駐車料金が嵩むので何とかして貰えないか、というご意見をいただいております。この間に私が直接お聞きしたのは、小児科に乳幼児が長期間入院されている保護者の方が夜中の間、自動車を駐車すると数千円の駐車料金が必要になるため何とかならないか、というご意見で、その様な課題があるということは病院として認識しておりまして、患者さんの割引料金と一般で駐車されている方との間に付添の方等が位置付けられないかということも含め、現在、駐車場の管理運営をしておりますタイムズ24(株)と料金の検討を行っているところで</p>

<p>○大森委員長</p> <p>○森田病院長</p> <p>○大森委員長</p>	<p>ございます。</p> <p>他にご質問・ご意見はありませんか。</p> <p>以上で、本日の案件はすべて終了しました。</p> <p>これで本日の議事を終了します。</p> <p>閉会にあたり、森田病院長から挨拶をお受けします。</p> <p>(森田病院長の挨拶)</p> <p>以上で、本日の会議を閉会します。お疲れ様でした。</p> <p>(以上)</p>
---	---